

# 子ども食堂「地域の力に」



## 八学ボランティアサークル発足

八戸学院人間健康学科の学生が本年度、子ども食堂の運営を目標に掲げる「八学ボランティアサークル」を発足させた。養護教諭や社会福祉士を志望する1〜4年生32人が所属。今年中に八戸市内の施設を間借りする形で月1回の開設を目指す。福祉施設や地域のイベントの手伝いも行い、実地の経験を将来の進路に生かす考えだ。

(上條哲洋)

## 月1回開設、進路に経験生かす

サークルの指導を担当する同科の佐藤千恵子教授によると、サークルのメンバー構成は佐藤教授のゼミ生20人、学科生が12人。ゼミ生は養護教諭、学科生は社会福祉士を目指す学生が多く、共にボランティアや子ども食堂への関心が高いという。

佐藤教授は子ども食堂の運営団体などで構成する「子ども食堂in八戸」の代表を務め、関係団体の活動を支援。

今回の動きについて、「学生は子どもたちと年齢が近く、打ち解けやすいというメリットがある。将来、養護教諭や社会福祉士として働く上で、現場での経験は必ず役に立つ」と意義を語る。

メンバーの3、4年生5人は4月28日、同市の福祉施設「南浜の家くじら」を訪れ、高齢者が体操を楽しむイベントに参加。運営のサポートや食事の準備を担った。

部長を務める4年の秋山あぐりさん(分)は「社会福祉士は人とのコミュニケーション

福祉施設のイベントで食事の準備をする学生ら 4月28日、八戸市

ション能力と観察力が求められる。サークルの活動を通じてその力を培いたい」と意気込む。

3年の黒坂望人さん(21)は「大学の授業は主に同じ学年の同士で行うので、学外での活動で年齢が違ふ初対面の人と関わりたい。地域の力にもなれたらうれ

しい」と話した。サークルでは、福祉施設やイベントでのボランティア活動の依頼を受け付けている。

申し込み、問い合わせは佐藤教授 電話0178(30)2109、メール hisato@achinohe-u.ac.jpへ。